

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成26年5月15日(2014.5.15)

【公開番号】特開2013-255854(P2013-255854A)
 【公開日】平成25年12月26日(2013.12.26)
 【年通号数】公開・登録公報2013-069
 【出願番号】特願2013-205983(P2013-205983)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 5/055 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/05 3 8 2

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月28日(2014.3.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

実施形態の磁気共鳴診断装置は、撮像領域を、少なくとも 2 つの b 値をそれぞれ用いて撮像することにより少なくとも 2 つの元画像をそれぞれ得る撮像手段と、前記少なくとも 2 つの元画像における着目領域内に含まれる画素位置のそれぞれについて、当該画素位置についての前記少なくとも 2 つの元画像におけるそれぞれの画素値に基づいて当該画素位置に関する見かけの拡散係数を導出する導出手段と、前記着目領域内に含まれる画素位置のそれぞれについて、各画素位置について導出された前記見かけの拡散係数に基づいて、前記少なくとも 2 つの b 値とは異なる b 値を用いて得られる画素値を推定する推定手段とを備え、かつ前記少なくとも 2 つの b 値は、前記撮像領域に含まれる被検体の部位に応じて予め定めた。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

撮像領域を、少なくとも 2 つの b 値をそれぞれ用いて撮像することにより少なくとも 2 つの元画像をそれぞれ得る撮像手段と、

前記少なくとも 2 つの元画像における着目領域内に含まれる画素位置のそれぞれについて、当該画素位置についての前記少なくとも 2 つの元画像におけるそれぞれの画素値に基づいて当該画素位置に関する見かけの拡散係数を導出する導出手段と、

前記着目領域内に含まれる画素位置のそれぞれについて、各画素位置について導出された前記見かけの拡散係数に基づいて、前記少なくとも 2 つの b 値とは異なる b 値を用いて得られる画素値を推定する推定手段とを具備し、

かつ前記少なくとも 2 つの b 値は、前記撮像領域に含まれる被検体の部位に応じて予め定めたことを特徴とする磁気共鳴診断装置。

【請求項 2】

前記少なくとも 2 つの b 値は、前記被検体の複数の部位毎に少なくとも 2 つが定められ

前記複数の部位のそれぞれに関連付けて、その部位に対して定められた前記少なくとも 2 つの b 値をそれぞれ記憶する記憶手段をさらに備え、

前記撮像手段は、前記撮像領域に含まれる前記被検体の部位に関連付けて前記記憶手段に記憶された少なくとも 2 つの b 値をそれぞれ用いて撮像することを特徴とする請求項 1 に記載の磁気共鳴診断装置。

【請求項 3】

前記推定手段は、前記少なくとも 2 つの b 値よりも大きな b 値を用いて得られる画素値を推定することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の磁気共鳴診断装置。

【請求項 4】

前記少なくとも 2 つの b 値は、前記複数の部位およびその部位についての症状の組み合わせ毎に定められることを特徴とする請求項 2 に記載の磁気共鳴診断装置。

【請求項 5】

前記導出手段は、前記少なくとも 2 つの元画像の不要領域を除いた領域の画素についてのみ前記見かけの拡散係数を導出することを特徴とする請求項 1 に記載の磁気共鳴診断装置。

【請求項 6】

前記推定手段は、前記少なくとも 2 つの b 値とは異なる b 値を、ユーザにより指定された値とすることを特徴とする請求項 1 に記載の磁気共鳴診断装置。

【請求項 7】

前記推定手段により各画素位置についてそれぞれ推定された画素値を配列して生成される計算画像を表示する表示手段をさらに備え、

前記表示手段は、ユーザにより b 値を変更する操作に応じて、表示する前記計算画像を変更することを特徴とする請求項 6 に記載の磁気共鳴診断装置。